

白方小学校だより

白方の風

【学校教育目標】自ら学び考え、心豊かで健やかに生きる児童の育成

令和7年度
No.36
東海村立白方
小学校
2026.1.16
児童数452人

1月は早くも折り返しを迎えるました。東北や北陸地方では毎日雪が降る季節となっています。関東地方では、日本海側へ入る湿った空気が雪として水分を放出した後に、乾燥した冷たい風となって吹きおろす季節です。乾燥は、喉や鼻の粘膜が空気中の細菌やウイルスを防ぐ機能を低下させます。そこで、うがいや手洗いをして、できる限り鼻や喉につく細菌やウイルスを取り除くことを継続して、風邪や感染症を防いでいるようにして参りたいと存じます。お家でも外出後のうがい、手洗いのお声かけをお願いできればと存じます。

珠の置き方の確認には時間がかかるため、コミュニティースクールである学校運営協議会で提案され実施されている「白方キッズソポーター」（ボランティアで、学校の教育活動を支援する地域の皆様）の支援を受けました。ソポーターの皆さんのが、児童の机の間を回りながら、正しく珠が置かれているか、足し算や引き算の際の珠の動かし方が正しくできているなどを見ていただきました。足し算の繰り上がりや引き算の繰り下がりの際に、そろばんの珠はどうやって動かせばよいのか、難しく感じている児童もソポーターの皆様のお声かけにより、安心してそろばんを使った計算を行うことができました。ソポーターの皆様には心より深く感謝申し上げます。



科学技術振興大賞受賞

～ 研究成果の実践の発表を行いました。～

本校の土地つくり調査隊（6年生希望者）が研究調査結果を応募した、げんでん科学技術振興財団主催の科学技術振興事業において、「科学技術振興大賞」を受賞しました。授賞式では、ホタルが生息する東海村の各地点の調査研究結果の発表を行い、多くの皆様に、ホタルが生息できる湧水や自然環境が守られている東海村について知っていました。



「いにしえガーデン」の蝱梅（ロウバイ）

～ 甘く気持ちが安らぐ香りがします。～

白方小の校内自然林である「いにしえガーデン」の運動場に近い場所に蝱梅（ロウバイ）の木があります。その蝱梅の木に花が咲き始めています。年末は蕾が多くたのですが、今は枝の先にぽつりぽつりと花がつき始めました。

蝱梅は江戸時代に中国から渡ってきました。そのため、当時の中国を表す「唐」の梅と書いて「唐梅（カラウメ）」とも呼ばれることがあります。日本では広く庭木として植えられ、冬には蝱細工のようにツヤのある花弁の花を咲かせます。花は香り高く、梅のような甘い香りが特徴です。

より多くの人が食べられる共通献立の日 ～ 4年生が会食しました。～



12月23日（火）はより多くの人が食べられる共通献立の日でした。食物アレルギーは、好き嫌いとは違い、原因となる食材を食べるとアレルギー症状が出ることで、人によって原因になる食べ物や症状などが違います。今日の給食は、食物アレルギーがある児童生徒も食べられるように、アレルギー反応を起こす原因となる食材をできる限り減らした給食を提供しました。食材は茨城県産のレンコン、ゴボウ、ニンジン、東海村産のお米、ネギ、キャベツなど、飲み物は牛乳の代わりにココア味の豆乳でした。4年生はランチルームで、みんなで会食をして、楽しい給食の時間を過ごしました。



そろばんの学習

～ 地域のボランティア「白方キッズソポーター」の方々に学習の支援をしていただきました。～

12月に4年生がそろばんの学習を行いました。そろばんを使って足し算、引き算をする計算の仕方を学びました。そろばんを久しぶりに触る児童も多く、数字を見て、そろばんの珠を置く段階から学びました。一人一人のそろばんの

